



人間文化研究機構
基幹研究プロジェクト
NIHU TRANSDISCIPLINARY PROJECTS



パレスチナ学生基金
Japanese Scholarship
Programme for Palestinians

ナクバ70周年講演会

パレスチナ学生基金・主催
中東イスラーム研究拠点現代中東地域研究事業
パレスチナ／イスラエル研究会・共催

2018年5月19日(土) 14:30～17:00(開場 14:15)

会場:文京シビックセンター26階「スカイホール」

講演 白杵陽氏(日本女子大学教授)

「ナクバ70周年を未来に向けて回顧する」

岡真理氏(京都大学教授)

「Becoming – パレスチナ人《であること》/パレスチナ人《になること》」

同時開催・パレスチナ学生基金2018年度総会(18時～19時)

会場:文京シビックセンター4階「区民会議室B」

参加費無料
どなたでもご参加
いただけます。

*ご参加には事前登録が必要です。裏面の参加申し込み書にご記入の上、Eメール、FAXまたは郵送でお申し込みください。Eメールは件名を「シンポジウム参加申込」とし、同内容を明記してください。

◆参加申し込み・お問い合わせ先◆

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
錦田愛子研究室気付 パレスチナ学生基金事務局

FAX:042-330-5697 Eメール:palestinescholarship_pub@tufs.ac.jp

主催 パレスチナ学生基金

共催 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 中東イスラーム研究拠点(人間文化研究機構「現代中東地域研究」事業)

ナクバ70周年 講演会

—今年パレスチナにおけるナクバから70年にあたる。1948年5月、ヨーロッパで迫害されたユダヤ人が安全な場所を求めてイスラエルを建国した。そこに住むパレスチナ人は故郷を追われ難民となり、また占領下での生活を送ることとなった。ナクバ(アラビア語で「大破局」の意味)とは、この離散の悲劇を表す言葉である。パレスチナ学生基金はこの機会を捉え、故郷からの離散という歴史を背景に、新たな国際秩序における今日のパレスチナ問題を議論するため、講演会を開催する。

臼杵陽氏(日本女子大学教授)

岡真理氏(京都大学教授)

「ナクバ70周年を未来に向けて回顧する」

「Becoming – パレスチナ人《であること》/
パレスチナ人《になること》」

米大使館エルサレム移転問題を機にパレスチナで10代の若者を中心に新たな闘争が開始された。21世紀生まれの新世代が主役である。ナクバ70周年を機に、1948年世代、1967年世代、1987年世代など、世代間の推移から、この70年のパレスチナの人々の闘いをこれからの課題として改めて読み直してみたい。

世界周知のもとで、11年目に入ったガザの完全封鎖、繰り返される大規模軍事攻撃、そのたびに刈り取られる命。帰還を求める平和行進で占領軍の銃弾に斃れる人々。世界人権宣言から70年目のガザ、パレスチナの現実、この世界そのものの退廃を表す。この世界の《恥》としてのガザ...いま、パレスチナ人《である》とは何を意味するのか？

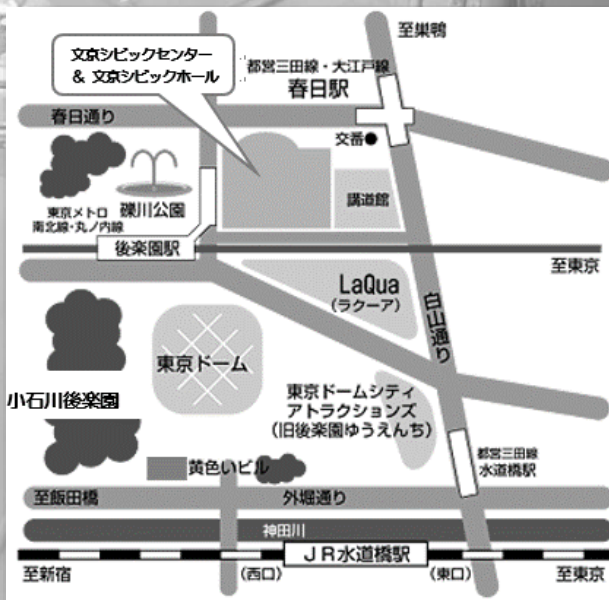
参加をご希望の方はご記入のうえ、Eメール、FAX、または郵送でお申し込みください。

「ナクバ70周年」シンポジウム 参加申し込み書

フリガナ お名前:	参加をご希望するものに○をしてください。
ご所属: (所属はなしでも構いません)	シンポジウム・総会

参加申し込み・お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
 錦田愛子研究室気付 パレスチナ学生基金事務局
 FAX:042-330-5697 Eメール:palestinescholarship_pub@tufs.ac.jp



◆会場(文京シビックセンター)へのアクセス◆

東京外口後楽園駅

丸の内線(4a・5番出口)南北線(5番出口)徒歩1分
 都営地下鉄春日駅

三田線・大江戸線(文京シビックセンター連絡口)徒歩1分
 JR総武線水道橋駅(東口)徒歩9分

主催 パレスチナ学生基金

共催 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
 中東イスラーム研究拠点(人間文化研究機構「現代中
 東
 地域研究」事業) パレスチナ/イスラエル研究会